

学修への意識を新たに

高橋 由輝

大学受験を乗り越え、晴れて国語教育コースの一員となる喜びを得たのも束の間、私たち一年生は先生方や先輩方、そして四年間を共に歩む同輩たちとも会うことができなくなりました。世界中に大きな影響をもたらした新型コロナウイルス。あつて当然の日常が奪われたのは残念だが、この事態は大学進学の日目を迎えた私に、学ぶことの意義と周囲の人の大切さに気づくきっかけを与えたと感じている。

「なぜ学校で学ぶ必要があるのか。」私は大学進学前からこの疑問を持っていた。自分の興味とは異なる知識、技能を習うことに違和感があったからだ。しかし大学生になり、講義や新生活を通して多彩な知識や考え方を知る内に、自分の知らない物事が社会にはたくさんあることに気づき、驚いた。例えば国語教育ゼミナールの一コマでは、苦手意識が持たれがちな「文法」について、その

機能と成立過程に着目することで理解が深まることを知り、教師が深い知識を持つことが、分かりやすく興味深い授業を作ると知った。

また、ほぼ全ての講義がオンラインで実施された経験からは、直接会って話せることの価値を知った。講義中の気軽な議論、そして周囲との何気ない会話という、通学授業では当たり前の行為こそが集中力の向上と知識の定着に役立ち、学びの楽しさを助長するのだと思った。オンライン講義という極めて異例なこの機会は、私が持っていた疑問の答えを導き出してくれた。それは「学ぶのは自分の未来に繋がる深い知識を掴むため。学校へ通うのは、議論や会話など、一人ではできない大切なことをするため。」である。

今後学修を進めてゆくにも、教師となつて生徒を前にする時も、当たり前の学びができない状況を経て気づいた大切なことを忘れずにいたいと考える。そのために、これからの大学生活は講義や臨床を通して貪欲に知識を吸収する場にしりたいと強く考えている。

（たかはし よしき 信州大学教育学部国語教育コース一年）